

財政の見える化



臨時国会の最終日、参院本会議で、国の2009年度決算に対する「警告決議」が採択されました。これは決算を審議した結果、その使途に不適正や非効率なものがあったとして、内閣にイエローカードを突

き付けたことを意味します。

その内容は①会計検査院

が税の使い方に

問題ありとした

金額が約1兆8

千億円と過去最高を更新②

バイオマス関連で約6兆5

千億円もの税金を使って2

14事業が行われたが、効果があったのはわずか35事業③高速増殖炉「もんじゅ」に1兆円近い税金を使ったが、延べ14年以上も運転停止——などで、莫大な金額に上りました。

います。しかし、その前に「無駄」を無くさなければなりません。そのためには、金の流れを透明化し、国民がその効果を検証、監視できる「財政の見える化」を進めなくてはなりません。

きましたが、多くの役人は、「どうすればできるか」ではなく、「なぜできないか」といった理由ばかりを説明してきました。

しかし、ここに来てようやく一歩前進させることができました。東日本震災の復興予算から「区分経

復興予算から「区分経理」実施

国の財政は、景気低迷や少子高齢化のためにひっ迫し、政府は増税を検討して

国民が税の使われ方に高い関心を持っているのに、それに応える仕組みがないのでは、不信は募る一方です。

理」が実施されることになったのです。復興にいくらか使われたかが見えるようになります。具体的な方法の検討はこれからですが、実効あるものになるよう、粘り強く取り組んでまいります。

女性議員の

国政リポート



これまで私は、委員会などで、財務省に「見える化」を繰り返し提案し、訴えて

す。